

日野市長 古賀壯志殿

2025 年 8 月 29 日
日本共産党日野市議団

猛暑から市民のいのちと暮らしを守る緊急申し入れ

近年の猛暑に続き、本年の夏は記録的な暑さとなっています。7 月における日本の平均気温は、統計を開始した 1898 年以降最も高い数値を記録し、猛暑日を記録したアメダス地点数は 4,565 地点となり、統計を比較できる 2010 年以降でもっとも多くなっています。

総務省消防庁によると、本年 8 月 18 日～8 月 24 日の一週間における熱中症による救急搬送人員数は 8402 人で、今年 5 月 1 日からの熱中症による消防庁が掌握している累計人員数は 8 万 4521 人となっています。

また、昨年度に都内で熱中症により屋内で死亡した方のうち、エアコンの設置がなかったか、エアコンがあっても使っていなかった方の割合は 8 割を超えており、命を守るためにエアコンの使用は不可欠となっています。加えてエアコンがあっても、電気使用料金を案じて使用を控える方の声もうかがっています。

東京都はこのたび熱中症のリスクの高い高齢者・障害者のエアコン購入支援制度の拡充を行いました。すでに都の支援を上回る独自の制度を開始している自治体もあります。

さらに福祉や医療分野で働く人の猛暑対策も重要であり、東京都は今年度から独自に、訪問系介護サービス事業所に対して、猛暑対策の物品の購入費補助を行っていますが、対象外となる事業所もあり、さらなる支援が必要です。

市民の命と生活を守る猛暑対策の強化が必要です。よって以下の事項を緊急に行うよう強く求めるものです。

1. 生活保護受給者、低所得者等が、電気料金の心配なくエアコンを使用できるようにするための経済的支援を行うこと。
2. 学校施設の最上階の天井や窓の断熱改修を、迅速にすすめること。
3. 給食調理室の空調設置を早急に行うこと。
4. 小中学校プールの遮熱対策、ミストシャワーの設置等、猛暑対策を強化すること。
5. 都制度を利用できない訪問看護事業所や障害児（者）への訪問系事業所に対して、市独自の猛暑対策の支援を行うこと。
6. 木陰が少ない公園には、子どもや家族連れなど公園利用者が安心して利用できるよう、シェードを張るなど暑さ対策を講じること。
7. 猛暑による農産物、生産費用への影響を調査し、必要な支援を行うこと。